

英語科学習指導案

日 時 2005年1月31日(月) 第5教時
生 徒 第2学年 男子7名、女子4名、11名
指導者 教諭 村上 慈

1. 単元名

Program 10 Her Dream Come True

2. 単元の指導目標と設定理由

本課では、ガンで亡くなった父親が果たせなかった、「世界を旅する」という夢を、主人公めぐみがお気に入りぬいぐるみをとおして実現させた実話が設定されている。また、本文を通して、その概要や登場人物の心情を理解すると共に、夢を抱くことや人と人とのふれあいの大切さについて考える教材となっている。

来年度3年生になる2年生にとっても、進路や自分の夢を考える時期をむかえ、進路実現や夢の実現へ向け気持ちが高まっている。本文を通して、主人公めぐみの思いや夢をかなえる喜びを感じとり、さらに自分自身の思いを高めることができればよいと考える。

言語の使用場面という観点から本課を見てみると、2学期最後に学習する比較級、最上級をさらに深め、more, most, better, best の用法を使い、身の回りのものを比較しながら描写したり、自分の好きなものや価値観をよりよく表現する設定となっている。すでに学習した内容を復習しながら、自分の好みや価値観を豊かに表現し、相手の表現に対しても正しく理解できるよう進めていきたい。生徒にとって、物事を比較することは、身近なことでもあるので、それぞれの場面で必要な表現を取り上げ、楽しみながら、学んでいけるように配慮したい。

(*1) 「～は、・・・よりもっと一である。」

(*2) 「～がいちばん一である」

の表現を理解し、正しく使える

(*3) 「～より・・・がもっと好き」

ようにする。

(*4) 「～が一番好き」

いずれの表現も、様々な例を出し、確認させながら比較表現を理解することで、表現の幅を広げさせたい。

3. 生徒の実態

全体的に学習意欲は高く、集中もしている。個人では、クラスの半分の生徒が積極的に発言し、授業をリードしている。その他の生徒は、若干理解に時間がかかる。特にその中の1, 2名の生徒は、わからないことが増えてくるとすぐにあきらめてしまい、教師側の声かけが必要である。

グループワークや、ペアワークは、誰もが積極的に取り組むことができる。

4. 単元の指導計画と評価

単元名		Program 10 Her Dream Came True [8時間]						
目標	①	比較表現を使い、身の回りのものや自分の好きなものを表現することができる。〈表現の能力〉						
		②	more, most, better, best, の用法を正しく理解し運用することができる。〈理解の能力〉					
③	本文をとおり、概要や登場人物の心情を理解することができる。							
	〈言語や文化についての知識・理解〉							
目標	配時	学習内容	評価の観点				評価規準	評価場面
			関	表	理	知		
②	2	文法チェック ①「比較級 more」「最上級 most」の表現を学び、理解する。 ②「like ~ better」「like ~ the best」の表現を学び、理解する。			○		①形容詞 more を使った比較級や the most を使った最上級を用いて「～は、・・・よりもっと～である。」「～がいちばん～である」と表現できる。 ②副詞の比較級 better, 最上級 the best をもちいて、「～よりも・・・が好き」「～が一番好き」と表現できる。	発問に対する答え ノート 観察
③	1	新出単語・語句の確認 ・発音練習・意味調べ			○		新出単語の意味を理解し、読むことができる。	ワークシート 観察
③	1	本文内容 ①本文の内容を理解し、比較表現や文法チェックで確認した事柄がどのような場面で使われているかを知る。			○		本文の内容を理解し、比較表現や文法チェックで確認した事柄がどのような場面で使われているかを確認できる。	教科書 発問に対する答え
③	1	本文内容 ②本文の内容を理解し、主人公の心情を聞き手に伝わるよう読む。			○		本文の内容を理解し、主人公の心情を聞き手に伝わるよう読むことができる。	リーディング 発表
①	2	表現活動①②(本時 2/2) ・日常の生活場で、「こんな時どういえばいいだろうか。」を考えさせ、比較表現を深める。			○		「こんなときどういえばいいだろうか。」を考え、比較表現を深めることができる。	表現発表 観察
① ②	1	単元のまとめ ・[My Dream]と題して、英語で作文を書くことに挑戦させる。			○		既習事項を生かし、英語で文章を書くことができる。	作文

5. 本時案 (7/8)

(1) 目標

・「こんな時どういえばいいだろうか。」を考え、比較表現を深めることができる。

(2) 展開

学習活動	生徒の活動	教師の活動	関	表	理	知	留意点
1 挨拶	あいさつをする	あいさつをする					英語学習の雰囲気づくり
2 Warm-up ① Today's expression	ノートをとる	板書する	○				
3 Warm-up ② BINGO	BINGO シートの準備 リスニング・発音練習	単語を確認できていない生徒に支援する	○				
4 Warm-up ③ 課題解決学習 <ペア学習> 《15分》	ペアで、問題を出し合い、互いに課題を解決できるように努力する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">課題 「like ~ the best, like ~ better than, を使って英文を作ろう」</div>	個人の課題を解決していく時間の設定。	○			○	タイムキーパー支援
5 課題把握 <グループ学習>	課題を解決できるように集中して、聞く	比較表現【文法チェック2】を振り返らせ、構造と意味を定着させる					比較表現の構造と意味を振り返らせながら、まとめと定着ができるように配慮する。
6 課題追求 《20分》	比較表現を振り返り、グループに当てられた単語を使い、文章を作る。 ゲームを通して、比較表現を理解し、基礎基本の力を身につける。	ゲームの方法を説明する。		○	○		場面に応じた英文づくり、その構造と意味を理解しているか。 相手が理解しやすいような音量や強勢で発音するなど工夫しているか。

5 まとめ Battle-Ship (ペア学習)	簡単な英作文を作る。	ゲームを通して、学習した比較表現がどのようなときに使われているのか知らせる。			○		全員が楽しめるよう支援する
6 挨拶 《10分》	あいさつをする	次時の予告 あいさつをする					

6. 本時の評価

(1)「こんな時どういえばいいだろうか。」を考え、比較表現を深めることができたか。

基準A：授業で出された比較表現にとどまらず、身近なものを取り上げ、自らの発想で表現することができたか。(英作文より評価)

7. 研究仮説とのかかわり

仮説1：生徒が「主体的に」学習に取り組むには、生徒自身が学習課題を把握し、学習の流れが見えるものでなければならない。それにより、生徒は学習に対して意欲を持って主体的に取り組むことができる。

仮説2：単元の構造分析や個に応じた指導場面の工夫を図り、課題に対して主体的に活動する場面を1時間の授業の中に設定することにより、生徒は「主体的に」学習に取り組むことができる。

個人学習、ペア学習、グループ学習を取り入れ、学習スタイルに変化を与えることで、学習意欲を高めることができると考える。特にペア学習やグループ学習では、やや関心意欲が欠ける生徒でも、楽しんで学習活動に参加できる場面設定を工夫している。

また、学習課題を提示することで、学習意欲が増し、生徒が主体的に取り組むことができるよう工夫したい。

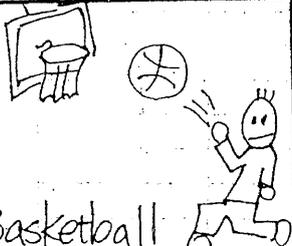
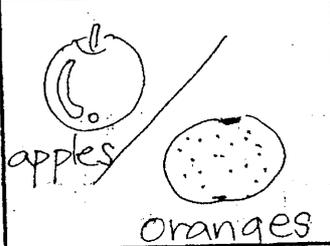
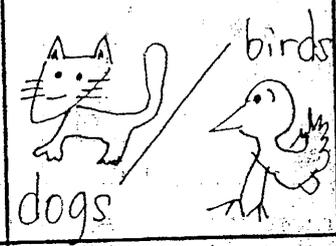
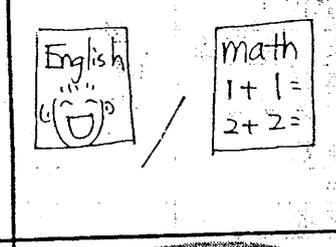
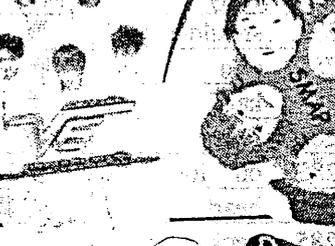
Battle Ship Game 12

《「～より」…がもっと好き」「～が一番好き」》

A: Do you like 😊 better than 😊 ?

A': Do you like 😊 the best ?

B: Yes, I do. / No, I don't

 <p>Basketball</p>	 <p>apples / oranges</p>	 <p>dogs / birds</p>	 <p>sea / mountain</p>
	 <p>natto</p>	 <p>English / math 1+1= 2+2=</p>	
	 <p>Ms. Murakami</p>		
			



① _____

② _____

Partner's

WORD CHECK LIST

251. child	子ども					
252. parent	親					
253. daughter	娘					
254. son	息子					
255. husband	夫					
256. wife	妻					
257. cousin	いとこ					
258. baby	赤ちゃん					
259. man	男性					
260. woman	女性					
261. gentleman	紳士					
262. lady	貴婦人、ご婦人					
263. foreigner	外国人					
264. speaker	話す人、演説者					
265. visitor	訪問者、客					
266. doctor	医者					
267. nurse	看護婦					
268. scientist	科学者					
269. pilot	パイロット					
270. dentist	歯医者さん					
271. lawyer	弁護士					
272. artist	画家、芸術家					
273. musician	音楽家					
274. businessman	ビジネスマン					
275. cartoonist	漫画家					
276. singer	歌手					
277. engineer	技術者					
278. body	体					
279. shoulder	肩					
280. arm	腕					
281. hand	手					
282. finger	指					
283. on foot	歩いて					
284. heart	心臓、心					
285. neck	首					
286. leg	足					
287. face	顔					
288. nose	鼻					
289. ear	耳					
290. eye	目					
291. mouth	口					
292. tooth	歯					
293. head	頭					
294. hair	髪					
295. disease	病気					
296. health	健康					
297. catch a cold	風邪をひく					
298. temprature	温度、気温					
299. idea	考え					
300. make up my mind	決心する					